1976年2月25日 第3種郵便物認可（毎週4回月・火・木・金曜発行）2025年2月17日SSKO通巻11846号「おあしす通信」2025年2月号

SSKO おあしす通信

2024年度
第3号

Since 1983

編集　キープハート（おあしすの事業を支える市民の会）

企業のご協力を得て、オアシス・プラスのお弁当を販売！

地域の企業である「明治安田」の社内にて、定期的にお弁当を販売しています！

社会福祉法人
おあしす福祉会

〒136-0076　東京都江東区南砂3-4-6
TEL：03-5690-5959
http://www.oasisfukushi.or.jp/

就労継続支援B型／就労定着支援事業所
■オアシス・プラス　〒135-0021　東京都江東区白河4-7-2　TEL 03-5646-7811
就労継続支援B型事業所
■コム・オアシス　〒136-0076　東京都江東区南砂3-4-6　TEL 03-5690-5959
■ピアワーク・オアシス　〒135-0001　東京都江東区毛利1-7-3田中ビル　TEL 03-5638-1775
地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助
■ウィル・オアシス　〒135-0002　東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル４階　TEL 03-6284-0545
共同生活援助事業（グループホーム）
■第２クローバーハウス
おあしす利用者家族の会「杏の会」
公益事業
■住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）
〒136-0073　東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204　TEL 070-6435-5374

利用者の活躍の機会を地域の企業と共に作り出す！

真のインクルーシブを目指して

地域企業との協力で販売機会拡大

オアシス・プラスの日替弁当は、地域の様々なお客様から日々ご注文をいただいております。江東区東陽にある明治安田様からも、複数の部署からご注文をいただいておりましたが、昨年、事務オペレーション部の方から「お弁当の注文以外にも、何か協力できることはありますか？」とお声をかけていただきました。

その一言をきっかけに、私たちも地域の企業と一緒に利用者の活躍の場・機会を広げる取り組みをつくっていきたい！と意気込み、様々なご提案をさせていただきました。声をかけていただいた社員の皆様のご理解とご協力を得て、2024年10月より社内（新東陽町ビル）でお弁当の販売をさせていただけることになりました。

毎月、第二水曜日の11:30～13:00に社内食堂の前にて、事務オペレーション部の社員様もご協力くださり利用者と一緒に販売をおこなっています。

今回は、社内販売という貴重な機会をくださった明治安田　事務オペレーション部　武内様からのメッセージと、販売に参加した利用者の声を、販売風景の写真と共にお伝えします。

「超えよう。」

お弁当販売会は手探りでのスタートでしたが、オアシス・プラス様と共に、現状を「超えよう！」と一歩踏み出したことが始まりでした。

販売実績が上がればワクワクし、「美味しかった」の言葉に嬉しくなり、懸命にお弁当を作っていただいた皆さまと共感する思いで一緒に販売しました。

明治安田は、２大プロジェクトの一つとして「地元の元気」を掲げています。

今後も、お弁当販売をきっかけに、就労支援への理解を深める取り組みを行なって参ります。

明治安田　事務オペレーション部　武内 裕子様

～販売に参加した利用者の声～

宣伝ポスターと共に、社員の方と呼び込みをします。

完売が嬉しい！

私たちは、明治安田の食堂のところでお弁当の販売をさせていただくのですが、会社のロビーや食堂がとても綺麗で、そうした環境で販売させていただくことができてとても嬉しいです。また、これまでの販売会での売れ行きが非常に良いので、“毎回完売できたら嬉しい！”と思っています。

販売会では、明治安田　事務オペレーション部の社員の皆様が、私たちと一緒に販売に参加してくださり、とてもやりがいがあります。

これからも、社員の皆様と一緒に販売会を頑張れたら嬉しいです。　（オアシス・プラス　M・F さん）

社員の方が、利用者と一緒に販売準備をしてくれます。

社員の方との“協働”が喜びと学びに

明治安田の社内販売では、お客様の中にリピーターの方もいらっしゃるので、社員食堂や社内のコンビニもある中で、私たちのお弁当を選んでくださっていると思うとありがたいです。販売中も、社員の方がタイミングをみて、社内放送でお弁当販売の案内もしてくれます。そうした皆様の協力もあって、お弁当の完売につながっていると思います。

手伝ってくださる社員の方々は、いつも私たちと一緒に呼び込みやお弁当の袋詰めをしてくださいます。社員の方々と共に販売に関われることが新鮮で楽しく、社員の方とのちょっとしたコミュニケーションの中にも、勉強になることがあります。

私にとっては、オアシス・プラスのお弁当販売を通して、様々な人と関わって働く良い機会になっています。

（オアシス・プラス　中嶋　七美さん）

人と関わることで笑顔が増えた

私は、オアシス・プラスでお弁当製造に関わるようになり、以前より体を動かすようになりました。そして、人と関わることが増えたためか、以前より笑うようになりました。

最近では、お弁当の販売業務にも挑戦して、お客様の表情を直接見られることにやりがいを感じています。

明治安田の社内で、自分たちがつくったお弁当を販売できることは光栄です。なぜなら、自分たちがお弁当の製造販売をしていることを多くの社員の方に知っていただけるからです。

これからも、いろいろなことに挑戦してみようと思います。　（オアシス・プラス　H・Kさん）

毎回、4～5種類のお弁当を販売します。

お客様の笑顔に利用者もやりがいを感じます。

障がいの有無を超えて、誰もが活躍できる社会に！

今回、私たちが地域の企業内でお弁当販売をするという貴重な機会につながったのは、明治安田様からの「私たちが何かもっと協力できないか？」という声をかけていただいたことがきっかけでした。

社内販売に参加した利用者は、オアシス・プラスから一歩外に踏み出し、いつもと違う環境でお客様と直接コミュニケーションをとりながらの仕事に、非常に刺激を受けています。何より、事務オペレーション部の皆様が利用者と一緒に販売に参加して、販売の準備やお客様の呼び込み等を手伝ってくださり、“共に販売している”という喜びがあります。販売中は、社員の方と利用者のコミュニケーションも生まれ、そのことも参加する利用者の大きな楽しみと学びにつながっています。もちろんですが、お弁当の売り上げはそのまま利用者の工賃となり、障がいを持つ方の生活の糧となります。

改めて、このような貴重な機会をいただいた明治安田事務オペレーション部の皆様に感謝申し上げます。

（オアシス・プラス
井本 弘己）

障がいがある人もない人も、
どのような人も活躍できる社会に
するために、これからも地域の皆様と
一緒に様々な取り組みをしていきます。

**今回のような施設の外で働く機会の
提供にご協力いただける企業、
団体等の皆様がいましたら、
お気軽にご一報くださいませ。**

地域の中で、施設の外に活躍の場を！

おあしす福祉会は地域の中で利用者が活躍できる機会を求めています。今回はその取り組みの一部をご紹介します。

未来みらいcafe

2024年7月20～21日に幕張メッセで開催された「日本在宅医療連合学会第6回大会」の特別企画として実施された『未来みらいcafe』にオアシス・プラスから利用者1名、OG1名が店員として参加しました。この企画は昨年度JAXA食堂の献立監修でお世話になった川口美喜子先生からのお声かけにより実現しました。このcafeは障がいのある方、認知症の方々が店員となり、介護食のケーキ、ドリンクを来場者に試食する機会として、多くの方にご利用いただきました。

アートパラ深川

障がい者アートの市民芸術祭『アートパラ深川おしゃべりな芸術祭2024』に、おあしす福祉会は昨年同様「アート絵馬」の作成、「街なかアートの額装・額清掃作業受託」「のらくろ～ド商店街でのイベント」への出店で協力しました。

今年は新たに、芸術祭の入賞作品の缶バッジ制作の受注もいただきました。この缶バッジの売上はアートの作家さんに還元されるそうです。今年で5回目となる市民芸術祭はおあしすにとっても欠かせないイベントになっています。

深川資料館通り商店街

かかしコンテスト

オアシス・プラスも加盟している深川資料館通り商店街の恒例イベント「かかしコンテスト」に今年は「阿部一二三選手」で出展し、金賞を授賞しました！

田巻屋100周年

商店街で一番の老舗である呉服屋・田巻屋さんの100周年記念イベントが10月に開催されました。この会場には商店街周辺の人気飲食店20店舗以上の様々な食べ物が振る舞われました。その人気飲食店と共にオアシス・プラスの豚汁も参加し、多くの来賓の方にご賞味いただきました。

深川ふれあいセンターまつり

江東区平野にある「深川ふれあいセンター」様は日頃からお弁当注文を頂くなど、交流を続けています。毎年10月開催される同センターのお祭りに、プラスも出店しました。ボランティア様用の豚汁150杯とお弁当130食、一般来場者に販売する焼きそば50パックのご注文を頂き、豚汁の提供と焼きそばの販売も、利用者が仕事として関わりました。焼きそばを待っていた方々が多く、あっという間に完売となりました。

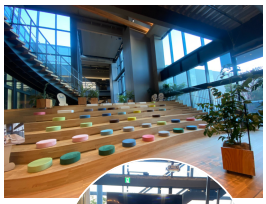
のらくろ～ド商店街

高橋のらくろ～ド商店街で年に2回開催される「美楽市」にオアシス・プラスも出展するようになって2年になります。屋外イベントでは定番商品の豚汁、寒い日にはとっても喜んでいただけます。常連のお客様もでき、お鍋を持ってきてくれるご近所の方も！こちらの商店街の理事長様のご紹介で、エリア内にある森下文化センターの皆様とも連携させていただく機会に繋がりました。

武蔵野大学

江東区有明にある武蔵野大学とは、精神保健福祉士の実習受入に加えて、“グローバル学部日本語コミュニケーション学科”と“工学部サステナビリティ学科”の学生さんたちとも交流をしています。同学の屋上農園にプラスの利用者が数回行き、野菜を植えたり収穫することを学生と共に行い、交流しています。昨年に引き続きサステナビリティ学科の皆さんからお声かけいただき、11月に同学科主催のイベント「じゅんぐりマーケット」に屋上農園で採れたネギを使った豚汁販売で出展させていただきました。サステナビリティということで豚汁の容器は再利用できる器を使用しました。

清水建設 NOVARE



江東区内にいくつもの大きな社屋がある清水建設株式会社様からは、様々な交流の機会・ご支援を頂いています。2024年に同社が江東区潮見に「温故創新の森 NOVARE」という社屋を開設され、新たな取り組みを開始されるという中で、これまでつながりのあった社員様から、社内定期イベントへのケータリングのご注文を頂けることになりました。ご注文だけで無く、新しく大きな社屋内と敷地内にある一般公開前の「旧　渋沢邸」の見学もさせていただきました。さらには同社が保有する「サイバーボッチャ S」を社員の方と一緒に体験し、楽しく交流する機会もいただきました。普段入ったことのない、大きくて様々な設備や空間、150年前の素晴らしい建築物である旧渋沢邸に利用者も職員も大いに感動しました。今回ケータリングや見学をご担当頂いた七種様からのコメントを以下に紹介いたします。

「普段はブルーシャークスのケータリングでお世話になっています。社内のランチイベントや懇親会で料理をお願いできるところを探していたところ、同じ江東区内で活動をしているオアシスさんを紹介いただきお願いすることになりました。毎回、美味しい料理を提供していただき、イベントでも大好評です。」

清水建設株式会社 NOVARE プランニングオフィス アドミニストレーションユニット　七種　詩織

◆ 地域の企業・団体・商店の皆様からのお声かけやご提案をいただきながら、私たちおあしすからも相談をさせていただいたり、という形で、様々な取り組みが広がっています。施設から一歩出て、職員や家族以外の人と関わり、普段とは違うことに取り組むことで、自信や喜びを得た利用者が多くいます。地域の中で「こんなこと役に立つのかな？」という小さなことでもかまいません。私たちの活動が地域の役に立てることは精神障害の回復に役立ちます。地域の皆様からのお声かけ大歓迎です。

日本精神障害者リハビリテーション学会
第31回 東京お台場大会

12月14～15日に江東区有明にある東京有明医療大学で開催された「日本精神障害者リハビリテーション学会」におあしす福祉会から総勢15名の職員で参加してきました。今回は『「子どもたちに笑顔を届けたい」たくさんの思いをつないだ13年』（木のおもちゃを贈る活動報告）、『障害者としてではない役割や関係性を地域の中で得ることによるリカヴァリー促進と地域住民の障害者理解の変化』という２つの実践報告をポスターで発表しました。その他法人広報＋物品販売のブース出店、学会プログラムのランチョンセミナーでのお弁当100個の受注もあり、多くの精神保健医療領域の方たちに当法人のことを知っていただく機会ともなりました。　（友田 奈津美）

就労支援フォーラムNIPPON 2024

2024年12月14日～15日にわたり開催された就労支援フォーラム（日本財団主催）に参加しました。

基調セッションでは、当事者が自身の体験を活き活きと講演し、基調ディスカッションに至っては、障がい者が金儲けのビジネスになっている現状に切り込んだ刺激的な内容で、“誰のための支援か！？”について、徹底的に議論する充実した内容でした。

研修で得た学びを活かして、支援者がすべきことは何か、考え実践していきます。　（井本弘己）

子どもたちの笑顔に思いを馳せながら

アフラックペアレンツハウス浅草橋 オープンハウス訪問

私たちにできること ～子どもたちに木のおもちゃを贈る活動～

はじめは被災した子どもたちのために

ピアワーク・オアシスの「子どもたちに木のおもちゃを贈る活動」は2011年の東日本大震災がきっかけではじまりました。

被災した子どもたちに自分たちが作るおもちゃをプレゼントする、という活動は大きな反響を呼び、13年にわたる活動で私たちはたくさんの子どもたちの笑顔を目にし、多くの協力者を得て「誰かの役に立つこと」が、大きな喜びや自信となり、それが自分たちの可能性や希望につながることを知りました。

今度はがんの子どもたちのために

2020年頃からのコロナ禍では私たちの活動も大きく制限されましたが、感染対策で面会が制限され、病室でひとり病気とたたかっている子どもたちがいることを知りました。そこで公益財団法人がんの子どもを守る会（以下、がんの子どもを守る会）のご協力のもと、活動を拡大することにしました。

今回はがんの子どもを守る会が運営する治療を受ける子どもとそのご家族が利用できる宿泊施設、アフラックペアレンツハウス浅草橋が20周年を迎え、オープンハウス（施設公開）を実施するとのことで、2024年11月におもちゃを持って利用者とともに訪問してきました。

ペアレンツハウスのスタッフさんの声

◆みなさんからいただく木のおもちゃは、病気のお子さんはもちろん、その親御さんの気持ちも癒す大事な役目をしています。これからも大事にハウスに置かせてもらいます。そして、今回もたくさんの新しいおもちゃを届けてくださり、びっくりしましたが、とても嬉しかったです。新しい仲間が増えて、これからの時期にハウスがあたたかくなります。お気持ちありがとうございました。

◆『ぶたさん』のカリンバをありがとうございます。写真で見せてもらっていたよりもきれいな色で、スタッフと「わぁ、かわいい！」となりました。早速お母さまにお電話したところ、「待っていました、ありがとうございます！」とのお声をいただきました。

プレゼントした
「ぶたさんのカリンバ」

訪問したおあしす利用者の声

◆「辛い治療に堪えているお子さん、手術を控えているお子さんたちがここで生活しているんだよな」と考えると、何とも言えない複雑な気持ちになった。自分たちのおもちゃが、子どもたちの治療の手助けになったら嬉しいと思った。

◆お子さんやご家族が生活する部屋を見せてもらった。カラフルなカーテンがかわいくて、明るく優しい雰囲気を感じた。帰り道で迷ってしまい、せっかくふるまってもらったレモネードとドーナツの味を忘れてしまった‥くやしい！

◆ホテルとは違って、なるべく自宅に近い“あたたかな空間づくり”をしていることがわかった。今回の訪問で、改めて子どもにとっておもちゃはなくてはならない大事な存在だと感じた。

「誰かの役に立ちたい」という気持ちは、誰もが心のどこかに持っているものではないでしょうか？
この活動をしていると、人との関わりや社会的な役割を持つことで、心が豊かになることを実感します。
これからも私たちのこの活動を見守っていただき、ご協力いただければ幸いです。（瀧下 春菜・武藤 康司）

＊くわしくはチラシをご覧ください＊

第16回グッズデザインコンクールに入賞しました

きょうされんオリジナルカレンダー 2025年「はたらく仲間のうたスケジュール帳」の挿絵に採用されました

『きょうされん グッズデザイン コンクール』とは

　きょうされん（共同作業所全国連絡会）に加盟している、作業所・事業所・施設等を利用している人が応募できるコンクールで、入選・入賞すると、その作品をデザイン化し、様々な商品となり「きょうされんグッズ」として販売されます。
「きょうされんグッズ」はおあしすが夏と冬に実施している「特別販売活動」でも購入できます。2024年の第16回は応募総数1,700点超だったとのこと。この中から吉田さんの作品が入賞となりました。

「桃色のシャクヤク」

　この作品は、絵画教室で描いたものです。先生から「絵の世界は自由だから、自由に描いてください」と言われたのでかわいい印象にしたくて、レモンイエローだったシャクヤクを桃色にしました。作品の写真ではわかりにくいのですが、色鉛筆で6色ほどを使ったグラデーションになっています。

　3度目の挑戦でグッドデザインコンクールに入賞し、さらに2025年の手帳に採用されたことで「やったね！」と思いました。

　以前は年をとることに不安や心配を持っていました。今は新しいことに挑戦することで、将来の目標や自分の生き方を考えるようになり、これからの生活も楽しいだろうなと思っています。

　私はこれからも絵の勉強を続けていき、またグッドデザインコンクールに挑戦したいと思います。みなさんもぜひ、いろんなことにチャレンジしてみてください！

吉田奈生さん

2025年 理事長挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年は能登半島地震で新年を迎えましたが、今年は平和な１年になりますことを願っております。

さて、おあしす福祉会は本年４月に設立４２年目を迎えることになります。この間、おあしす福祉会へご支援ご協力いただいた市民・団体の皆様に感謝いたします。障害があっても一人の市民としてかけがいのない存在として役割を果たせる共生社会を実現するには、皆様のご理解とご協力が必要です。おあしす福祉会はこれまで以上に当事者とともに「地域に出ていき地域の皆様とともに活動する」ことを中心的に取り組んで行きます。

障害があってもなくても、一人一人が大事にされる地域を作るために御協力をお願いいたします。

理事長 平松 謙一

寄付のお礼

おあしす福祉会に今年度ご寄付をいただいた企業・団体様を以下にご紹介いたします（敬称略）。

※個人のご寄付も頂いておりますが、個人情報保護の観点からこちらでの掲載は控えさせていただきます。

■NEC ソリューションイノベータ
■江東 YMCA 幼稚園
■清水建設株式会社
■聖救主教会キッドスクール
■東京善意銀行
■フードバンク江東
■リコーリース株式会社

みなさまからいただいたご寄付は、法人と利用者のために大切に使わせていただきます。みなさまの寄付のお気持ちを障がい当事者の希望につなげていけるよう今後も尽力して参ります。心より御礼申し上げます。

創立40周年記念 チャリティー上映会

映画「生きて、生きて、生きろ。」

※詳しくは別紙参照

参加無料

東日本大震災と福島第一原発事故による喪失と絶望の中で生きる人々と、彼らを支える医療従事者の姿をとらえたドキュメンタリー映画のチャリティー上映会をおこないます。参加無料。

2025年3月11日（火）18:30～
ティアラこうとう　地下一階　大会議室
お問合せ・申込：ピアワーク・オアシス
03-5638-1775（平日10～17時）

こちらのＱＲコードからもお申込みいただけます➡

寄付のお願い

利用者へのより良い支援施設設備の充実、今後の地域における活動のさらなる充実のために、多くの資金が必要です。皆さまからのあたたかいご支援をお待ちしております。

おあしす福祉会への寄付についてはこちら➡

郵便振替によるご寄付の場合
加入者名　おあしす福祉会
口座番号　00100　8　番号　82367
通信欄に「寄付」と明記のうえ、お申し込みください

発行人：障害者団体定期刊行物協会　世田谷区祖師谷3−1−17−102
編集人：キープハート／おあしすの事業を支える市民の会　定価100円